

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2013年12月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第550号

クリスマスは、日本の社会に唯一定着したキリスト教行事と言われます。

最近、ハローウィンや、バレンタインデーも頑張っていますが、クリスマスは、われわれ(高齢者)が子どものころから「サンタさんのプレゼント」という形で親しまれてきましたから、いぶん歴史があります。

ただその内容は教会の祝日というよりは、ファミリー・クリスマスであったり、最近では恋人と二人だけのロマンティックな時間という色彩が強いです。

そういう現実と、聖書が伝えるクリスマスのメッセージとは、すこし違うのではないかと、という気がします。

クリスマスへのメッセージは、「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる」(ルカ2章10節)という天使の言葉から、羊飼いたちがベツレヘムに赴くという話から始まります。

また『マタイによる福音書』では「占星術の学者たち」が訪れた後、大王ヘロデによる「ベツレヘムとその周辺一帯にいた2歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。」(マタ

イ2章16節)という、想像を超えるような残酷な話をともなっています。

羊飼いや、マギつまり魔術師とも訳せる「占星術の『学者』」、『学者』というといかにもインテリ風ですが、「魔術師」しかも「外国人」(異邦人)ですから、当時のユダヤ社会では羊飼いと同様「辺境」に差別されていた「弱者」

愛の両義性



関東運営委員

武田 利邦

あるいは「少数者」です。このような人々に「民全体」に与えられる「大きな喜び」つまり「福音」あるいは「神の愛」が伝えられます。「愛」そのものであり、まったくの弱者である赤ん坊の姿をとって「愛といのち」の源である「イエス」がこの世にひそやかに現れたのがクリスマスです。

この意味では「愛」はきわめて「両義的」(相反する二つの意味を持つ)です。

だから、アガペーを求めてロマンティックラブはやめろなどという、無粋な「お説教」をするつもりではありませぬ。キリスト教の『愛の思想史』(C. リンドバーグ)をみてもこうした二元論はともても評判が悪いようです。

そうではなく、なぜ多くの若者が「私的」な「愛」の世界を求めて、自分の身近な愛の世界に引きこもって、弱者や、少数者への「愛」へとひ

ろげることをしないのでしょうか。もし「私的」な「愛」の世界が「アガペー」の愛へと開かれなければならないならば、それ自身が、自らを貧しくしていくおそれはないでしょうか。

「仏教では、『愛』は『渴愛』といわれ、のどの渇いた人が水を欲するように、『理性』で抑えられない衝動的な欲望や執着であり苦のもとになるものである」(末木文士編著『思想の身体、愛の巻』)という指摘のように、「私的『愛』」は、「苦のもと」になることが実際多いように思えます。(DVやストーカー殺人)

とりわけ日本では「愛」に肯定的な意味を与え、広義の社会福祉や、弱者救済の根拠になったのはキリスト教の「アガペー」でありそのラテン語訳である「カリタス」(チャリティ)にほかなりません。この「両義性」を結ぶ鍵はもしかするともう一つの「地獄」のようなヘロデによる「大量の幼児殺し」という悲惨で、考えるにも恐ろしい、そして今も地球のどこかで続いている、見えない「哀しみ」にヒントがあるような気がするのです。

(農村伝道神学校講師)

関東活動センター

●パネルディスカッション

『牧師とは何か』を問う

パネリスト 日本基督教団中村町教会 牧師・東京神学大学教授

小友 聡さん

クリスチャン新聞編集長

根田 祥一さん

日本聖公会聖アンデレ教会牧師

笹森 田鶴さん

司会 日本基督教団経堂緑園 教会牧師・関東運営委員

松本 敏之

2013年9月9日(月)

日本キリスト教会館



今年4月日本キリスト教団出版局より出版された18人の牧師・神学者による牧師論『牧師とは何か』をめぐる、4人のパネリストによるシンポ

Zoomが開催された。当日は、執筆者も集い、活発な議論がなされた。4人の発題要旨は、以下のとおりである。

小友聡さん

本書は、日本の教会の「等身大の牧師像」を語っている。できれば日本基督教団のすべての牧師に読んでいただきたい本である。けれども、あえて問題提起をしたい。本書は信徒がどのように牧師を見ているかを扱っていない。もし、信徒が本書を読めば、「日本の牧師は苦勞しながらも実によく考え、立派に務めを果たしている」という感想を述べ

るに違いない。そうだとすると、現在の日本の教会が低迷状態にあり、それどころか凋落に歯止めがかからない状態にあることについて、牧師には何も責任はないということになりはしないか。信徒の側からの牧師像をきちんと知る必要がある。教会の低落打開のために牧師について処方箋が提示されないだろうか。

根田祥一さん

今、教会で「カルト化」と言われる牧師による歪んだ支配が頻発している。反面、牧師が本来のリーダーシップを発揮できずに孤軍奮闘し、燃え尽きる例も多い。その背景には、牧師と会衆とのコミュニケーション不全が見られる。信徒は牧師に過剰な期待をかけて依存し、裏腹に期待がかなわなければ批判する。信徒牧師間の過度な依存関係と相互不信とは、実は表裏一体なのではないか。福音を教える、伝えるという教師・伝道者としての牧師だけでなく、福音を「分かち合う者」としての牧師「理解が必要だ。喜びを共にする礼拝者、互いに仕える模範としての牧会者

像を求めたい。鍵は信徒と牧師が共に分かち合う「同労者」関係の再発見にあると提言する。

笹森田鶴さん

聖公会では、司祭は教区主教と共にいて、教区の司祭団のひとりとしてその職務を担う。それ故、牧師の職務は司祭団の一人として教区主教と共に果たすものである。それと同様に、牧師の職務もその信徒と共に共同的に担っている。牧師の重要な職務に祈ることと人と出会うことがある。すべての人を招くインクルーシブな交わりを教会で実現するために、さまざまな理由で教会にいらつしやれない方を訪ね、教会をすべての人の祈りの場として整える。牧師は信徒と共に教会の使命を果たしていく奉仕職である。天上の世界と地上の世界をつなぎ、歴史のただ中にある「教会」において祈り、人に会うために出かけていくことを、教会全体で求めていきたい。

松本敏之さん

私はこの書物に監修者・執筆者としてかかわった。この

書物は、多様な牧師像をそのまま提示している。むしろここから日本の教会の現実にした活発な議論が始まれば、と願っている。私自身の「牧会者としての牧師」の論考において、「あいまいさに耐える」「無力さに耐える」ということを述べた。「あいまいさに耐える」とは、「事柄をあいまいにする」ということではない。示されたヴィジョンを見失わず、同時に自分が遣わされた教会の現実を見据えて、すぐに白か黒か結論を出さず、忍耐強く歩んでいくことである。また牧師も人間であり、完璧ではない。その当たり前のことを自覚することで、背伸びをせず、自然体で働けるのではないか。

もう一人の監修者である越川弘英さんも参加し、「私たちの世代のものを作ることを目指したが、若い世代がこれを読めば、また違う形の違和感があるだろう。また牧師論は信徒論とタイアップさせないという意味がないだろう。私たちはいつも新しく牧師とは何か、教会とは何かと問うていく必要がある」と述べた。

関西セミナーハウス活動センター

●2013年度「開発教育セミナー」第5回

「グローバルゼーションの中で
求められる経済のしくみ
子どもたちとつくる未来のために」

同志社大学大学院教授 浜 矩子さん
2013年11月16日(土)～17日(日)



セッション①では、浜矩子さんからグローバル時代の基本心得について、わかりやすく元気が湧いてくるお話を聞いた。誰もが一人では生きていけない、国境を越えた相互依存関係の時代だからこそ、奪い合いから分かち合う経済への変換が求められる。そのためには、多様性と包摂性(包容力)が大事にされる社会を目指さなければならぬが、今の世界はその方向へ向

かっていない。人の痛みを自分の痛みとして受け取れるような社会を目指して、希望のための陰謀を築しく企んでいきたいという内容だった。セッション②では、貧困や格差の連鎖が生み出される構造を知るために、グループでのワークを行った。大事な情報は隠され、富を独占する1%の人々に有利な規制緩和などの法改正が優先され、戦争や災害などの混乱に乗じて、その連鎖が世界中の国や地域を浸食している現状を知ることができた。

セッション③では、オーストリアや岡山県真庭市などマネー資本主義から脱却しようとして試みられている里山資本主義と呼ばれる新しい取り

組みを具体的に知り、明日から自分たちでできることを考えることができた。

●2013年度「お茶のこころと宗教のこころ」第2回

「牧師さんが茶道教室の先生になると!」

牧方コミュニケーションチャペル牧師、京阪くずは文化センター表千家茶道教室講師

水野 健さん
2013年11月11日(月)



11月11日(月)、秋晴れの修学院でお茶プログラムが開かれました。この企画は既に5年ほどになりますが、沢山の方々が関心を持って参加してくださっています。毎回、聖書の黙想会と御茶席とキリスト教とお茶の関わりについてどなたかが話をするという構成になっています。

「派の人々がイエスに詰め寄ったという記事を中心に黙想しました。弟子の中に律法の細則(口伝律法)の1つである「食事の前に手を洗う」という規定を守っている者と守っていない者がいたということです。しかしイエス様は、そんなことは気にしないでそのままに置かれ、決まり事や作法よりも心から出て来るものを大事にされたことから、われわれも茶席の作法や仕来りよりも心から受けることが大事であることを学びました。

御茶席では、いつもは2グループに分かれて入りますが、今回は参加者が少なく一度にお点を受けて、そのま

まお茶の点て方などを教えていただいたり、秋の静かな茶室でのんびりと話をする事が出来ました。

講師の水野 健牧師は、東北大震災の現地にお茶で復興支援をなさったことなどを話してください、お茶が現代社会で人々の支援に役立つことを学ばせてくださいました。初めは紙コップでお茶を点てて差し上げたのですが、それでも喜ばれていました。が、「出来たら茶器で」との要望に、諸外国で日常生活で使われているお椀を使ってお茶を差し上げることを思い付かれて実行なさってみたと「新鮮だ」と喜ばれたそうです。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書を読む講座**

「聖書によれば同性愛は罪?—わたしの性とそのために」

講師: 山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時: 2013年4月~12月の第2月曜日(18:30~20:00)原則月1回 全8回

⑧12月9日 *第1~7回は終了

会場: 日本キリスト教会館6階会議室

参加費: 1,200円(学生500円)

共催: 早稲田奉仕園

■**宗教対話プログラム**

シリーズ「今、哀しみの最前線」「病む人に寄り添う中で見えてきたこと」

講師: 大柴 譲治さん(日本ルーテル教会武蔵野教会牧師、日本ルーテル神学校教授、賛育会チャプレン)

日時: 2014年2月8日(土) 14:00~16:30

会場: 日本キリスト教会館6階フォクトルーム

参加費: 1,000円/学生500円

■**神学生交流プログラム**

「今改めて十字架の神学を考える」

日時: 2014年3月27日(木)~29日(土)

開場: イエズス会無原罪聖母修道院・東京黙想の家

対象: 各神学校から推薦を受けた学生

共催: 関西セミナーハウス活動センター

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本キリストチャン・アカデミー**
 代表理事 小久保 正

本部事務局
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 TEL 075-711-2147
 FAX 075-701-5256

関東活動センター
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館6F
 TEL 03-3207-6198
 E-mail: info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス /
 関西セミナーハウス活動センター
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス
 TEL 075-711-2115
 E-mail: info@academy-kansai.com
 関西セミナーハウス活動センター
 TEL 075-711-2117
 E-mail: office@academy-kansai.org

ンター

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**

■**月釜 清心会**

日時: 2014年2月9日(日)
 9:00~15:00 受付
 (1、8月を除く年10回)

於: 関西セミナーハウス
 年会費: 5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2013年度開発教育セミナー**

第6回「気づきと対話のファシリテーション~アジアの共存と平和~」

講師: 池住 義憲さん(立教大学大学院教授)

日時: 12月14日(土)16:00~15日(日)12:00

会場: 関西セミナーハウス
 参加費: 10,500円(1泊2食込)

■**2013年度修学院フォーラム**

「エネルギーを考える」

第2回「福島原発事故を原点に据えて、日本と世界の歩むべき方向を探る」

講師: 姜 尚中さん(聖学院大学全学教授)

上山修平さん(日本キリスト教会横浜海岸教会牧師)

日時: 2014年1月12日(日) 16:00~13日(月祝)16:00

会場: 関西セミナーハウス
 参加費: 12,000円(1泊3食込)/学生5,000円

■**2013年度修学院フォーラム**

「福祉~重荷を負う人と共に」

第2回「前例がなければつくればいい」

講師: 青野 浩美さん(声楽家)

日時: 2014年2月22日(土) 13:30~17:30

会場: 関西セミナーハウス
 参加費: 1,000円/学生500円

《好評発売中》
『原子力発電の根本問題と我々の選択 バベルの塔をあとにして』 新教出版社刊
 日本クリスチャン・アカデミー編
 北澤宏一/栗林輝夫著 1,890円(税込)



昨年度、関西セミナーハウス活動センターで開催された修学院フォーラム「エネルギーを考える」の報告集が出版されました。講演録と、活発な質疑、はなしあいの記録です。ぜひご一読ください。

賛助会費・後援会費・寄付金報告		
2013年10月1日~2013年10月31日 (順不同・敬称略)		
◆ 財団本部	増永 文男	5,000
◆ 寄付金	新谷 雅子	5,000
◆ 早稲田教会	池田 正志	20,000
◆ 25,000	西野 満	5,000
◆ 関西活動センター	税理士法人トーマツ京都事務所	20,000
◆ 寄付金	株式会社ビューティフルツアー	50,000
◆ 立原 敬一	和研薬株式会社	50,000
◆ 5,000	株式会社イー・エイチ・エヌ	30,000
◆ 神学生交流プログラム募金	ヤマセイ食品	10,000
◆ 吉田 豊	稲尾乳業株式会社	5,000
◆ 3,000	◆ 関西セミナーハウス活動センター	
◆ 関田 寛雄	◆ 賛助会費	
◆ 10,000	医療法人八田内科医院	5,000
◆ 公益財団法人早稲田奉仕園	柳原 清美	5,000
◆ 10,000	葛原 茂樹	5,000
◆ 荒井 献	岩崎 裕保	5,000
◆ 5,000	北野 宗香	5,000
◆ 関西セミナーハウス	◆ 寄付金	
◆ 寄付金	◆ 3,000	
◆ 亀井 好美	◆ 3,000	
◆ 高橋 和子	◆ 5,000	
◆ 岡野 昭雄	◆ 5,000	
◆ 安藤 弘司	◆ 10,000	
◆ 宮内 隆一	◆ 5,000	
◆ 井上康三郎	◆ 30,000	
◆ 野嶋 和雄	◆ 20,000	
◆ 首藤 達雄	◆ 5,000	
◆ 株式会社藤木工務店京都支店	◆ 30,000	
◆ 秋元 幸雄	◆ 100,000	
	◆ 1,040	
	◆ 匿名	◆ 440
	以上、感謝をもってご報告申し上げます。	